

# 号外 真 心

まごころ

題字 鈴木 昭夫

臨時号

編集発行 流山市教育委員会

TEL 04(7158)1111

今、子どもたちの周りで、携帯電話やインターネットに絡む犯罪が多発し、子どもたちが巻き込まれる事件が起きています。本市で起きた事件を契機に、『子ども「ネット安全」対策会議』を立ち上げ、話し合ってきました。その内容を本紙で報告すると共に、議論の輪が広がるよう期待しています。

## 心の中に「安心・安全の砦」を

流山市教育委員会  
教育長 鈴木 昭夫

最近、ケータイやインターネット上の「プロフ」などから、子どもたちがトラブルに巻き込まれるといったことが多く発生し、私たちの身近でも事件が起きてしまい、とても心配な状況です。しかも、その対応に学校、家庭、地域などで、誰もが苦慮しているところです。

私たちが共同で生活していくためには、共通の規範が必要です。どうしたら他から押しつけられることなく、規範が形成されていくか、模索の日々です。

「お年寄りを大切にする。」「困っている人を助ける。」「人を傷つけない。」「うそをつかない。」・・・などは、時代がどのように移り変わろうとも、今後も大切にしていきたいものです。

ケータイやインターネット問題について、一方的に「こうなさい」「はだめ!」というのではなく、様々なところで議論していただき、その輪が広がり、さらに深められていくことが大切であると捉えました。こうした取り組みが子どもたちを犯罪から守り、心を育て、よりよい解決につながるものと考えます。

家庭・地域・学校が連携し、形式ではなく、真に心・内面に根付いた議論の輪は、心豊かに時代をリードできる子どもたちを育み、「安心、安全の砦」となると確信しております。

最後になりましたが、お忙しい中、私どもの主旨をご理解いただき、忌憚のないご意見・ご提言をいただきました、千葉大学教育学部准教授 藤川 大祐先生はじめ、『子ども「ネット安全」対策会議』の委員の皆様にご心より感謝申し上げます。



## 『子ども「ネット安全」対策会議』から



インターネットの急速な普及に伴い、有益性だけでなく、その影に潜む危険性についても目を向ける必要があります。特に、有害な情報は、今や想像もできないほど氾濫し、日常生活の中にも入り込み、いつ、どこで、子どもたちがこれらの情報に接触するか予想もできない状況にあります。しかも、情報発信・受信に伴う事件・事故などのトラブルに巻き込まれる危険性も高まってきております。

こうした状況を踏まえ、各学校でも子どもへの指導や保護者への啓発などを行っています。しかし、それにもかかわらず、4月にインターネットの自己紹介のサイト(プロフ)の書き込みをめぐる、本市の中学生が暴行を受け、意識不明の重体になるという大変な事件が発生してしまいました。

日常生活と異なるインターネットの中で、見知らぬ人と接することが多いので言葉の遣い方からトラブルが生じたり、作文能力の不足が誤解を招いたりすることがあります。ときには、他人の情報を勝手に送信するなどから子どもたちが気付かないうちに人権侵害の加害者や被害者になってしまうこともあります。

インターネットから得た情報と現実世界から得た体験とのギャップから起きる問題、携帯電話使用のマナーや電子メール依存などの課題に対し、適正な活動を行うための考え方や態度の育成をどのように図れば良いのか。

私たちは、この課題について、『子ども「ネット安全」対策会議』において、忌憚のない意見交換を行いました。その中で、規則作りや一方的な指導をすることではなく、子どもたちを交え、誰もが議論し自分達の問題として考え内面化を図ることが大切であるということを確認し、4点についてまとめました。

私たちの提言を機に、新たに、家庭、地域、学校をはじめ、関係機関の場で議論の輪が広がり、深まることを強く期待します。